

英文電子ジャーナルに反対とお答えいただいた方からのご意見

最初から完全な形を目指しては意見がまとまらない気がします。継続性などの問題もありますが、英文誌発行が学会としてメリット大であるならば発行に踏み切るべきです。その際の形態は特集号中心（依頼原稿を中心）に最初はせざるを得ないかもしれませんが、徐々に投稿先としてのメリットが出てくれば軌道に乗るのではないのでしょうか？ただその際、英文誌の知名度と査読の程度とのアンバランスが生じる可能性もありますね。

現在のように和英混合の学会誌と **Rapid communications** で実施されているような英文論文を電子化するスタイルが気に入っているのですが、

英文電子ジャーナル化は論文のサーキュレーション向上の面で役立つ可能性があり、是非進めるべきだと思います。ただし、投稿する側のニーズに合わせて、その運用、管理方法を決めることが大切だと思われれます。また、和文の学会誌もまだ必要と思われれます。これがなくなると、学会活動を学会員以外、例えば賛助会員や企業のエンジニアに理解いただくことが難しくなると思われれます。昨今の厳しい経済状態において学会が生き残るには、一部の閉ざされた専門家集団だけに限らず社会的に理解されなくてはならないと思います。紙の媒体は裾野を広げるのに、まだまだ必要だと思われれます。

貴学会だけではなく他の学会誌も同じように投稿数の確保や IF 等の問題を抱えているようです。最近の日本物理学会誌にも問題提起と改革案の記事が掲載されておりました。貴学会でも今回のアンケートや学会役員の方の意見をまとめて記事にすると良いと思われれました(そのご予定かもしれませんが)。問 9 で別刷りが必要と答えたのは、公募等の際に別刷りが要求されるケースがほとんどだからです(これは若手の意見です)。別刷りそのものについては無くても構わないという意見です。

英文電子ジャーナルは、時の流れとして発行することには賛成いたしますが、利便性は極めて悪い。パソコンのスイッチを入れ、しかるべき学会に入り、検索する必要がある。落ち着いて読むとき、例えば、出張中などには落ち着いて論文を読む時間が取れますが、そのような場合には電子ジャーナルは役に立たない。必要な論文があるのはどうか検索できない。冊子体は一冊鞆に入れておけば、ゆっくりと探すことが出来るし、読むことも可能である。論文を読むときはいずれにせよ紙に打ち出す必要がある。提案としては、目次とアブストラクトは冊子体で発行し、本論分は電子ジャーナル化して一切冊子体は出さないようにしても良いのではないのでしょうか。但し、その場合であっても、紙へのコピー（打ち出し）は出来るようにして置いてください。

電子ジャーナルの発行形態には、CD-ROM 配布と Web からの参照の 2 つを想定します。Reference として引用する時に何を引用するかですが、たぶん Web となると思われれます。しかし Web は年月がたつと移動するかも知れませんが、長期的に Refer 出来るかどうかが不安です。このため、印刷して重要な研究所に配布ということが必要なのでは無いかと考えます。長期的に閲覧できる事を保証する事が重要と考えます。

今整備中の英文の電子ジャーナル(学会ホームページ内の電子ジャーナル、J-STAGE)の様子(投稿数、各国からのアクセス、インパクトファクター)などを十分に分析しておいた方がよいのではないかと思います。また、海外での JSPF の知名度を上げるための工夫も必要ではないかと思います。

英文電子ジャーナルはあればいいが、今の学会誌に投稿される論文数から、英文電子ジャーナルにどれだけの論文投稿がありそうかの市場調査が必要と思う。このアンケートもその一環でしょうが、本当に期待される投稿数が評価できるか。プラズマ・核融合でくくったとき、物理オリエントの論文と工学オリエントのものが混在して、ごたごたにならないようにする必要がある。さらに、研究者の関心は論文評価であるから、ジャーナルとしての発展のためには、この雑誌に投稿すればたとえば昇任審査やポストへの応募時に高く評価されることが必要。そのためには、各種評価をする人たちの意識が重要で、戦略的キャンペーンが必要でしょう。

冊子と電子化メディアの選択性(年1回再選択可...等)にしてはどうか。会費に差をつけてよい。

海外有名論文誌や JPSJ との競争に勝つため、多く引用されるような質の高い論文の掲載が望まれ、安易な掲載許可を出すべきでないと思われる。

冊子体も別料金で買えるようにできないか

英文誌、和文誌の分離は英文論文を重視するためとを感じるが、それは結果として和文を軽視することにならないか。和文の解説、講座は大変興味深く読ませてもらっているので、その質、量を下げてもらいたくない。欧米の研究者に論文を読んでもらうためだとしたら論文の質を高めることしかない。むしろ、Web ページの強化をすべきではないか。ただ論文のタイトルが並んでいるのではなく、紙面のように、ざっと読める一覧性があったり、ぱらぱらページをめくる感覚で、論文を物色できるそんなサイトを作ることはできないか(難しいでしょう)。

本当に論文が集まるのでしょうか? 国際的に見て、プラズマ分野でもある程度のレベルの雑誌がいくつかあります。例えば、日本の研究者としては、論文投稿先を考慮した時にそれでは困るという事情があるのでしたら、日本発の英文論文誌を作る意味があると思います。しかし、掲載論文のレベルをどの程度に設定するのか? 予算的には問題ないから(あるいは少ない)ということで、電子ジャーナルを考えていると思いますが、結局、PRL などが一番上に違いないと考える研究者の方が多いのではないかと思えます。その意味でも、何のためにされるのかをもう少し具体的に教えていただければと思います。

実際のところ、私も最近、電子ジャーナルの利用しかしてなくて、紙の雑誌をコピーしに行くことは、めったになくなってしまった。しかし、研究の資源をネットワークにすべて依存してしまうのは、どうかと(例えば停電、災害などでネットワーク使えないと論文が読めない)思うことと、紙の雑誌がなくなってしまうことに寂しさを感じることも事実である。